

■リードのみの練習

[リードのコンディションをチェック]

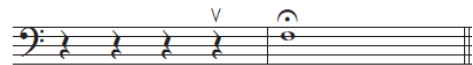
- ・リードだけで2種類の音色が出せます。一つは音程感のある音、一つはやや低音域でゴロゴロしたノイズな音です。
- ・リードを使い続けたりコンディションが悪化すると、この2つの音色をバランス良く出せなくなります。
- ・もし、2つの音が出しづらい場合は、リードをローテーションさせ、常に良いコンディションのリードで演奏しましょう。
- (リードは2~3本でローテーションできると良いですね)

■ロングトーン

- ・ファゴットは大きな楽器なので、息をよく使います。普段から楽器を鳴らせる身体づくりのためにもロングトーンは大事。
- ・ロングトーンは楽器にも嬉しい練習です。楽器の全ての音をしっかり鳴らしてあげることで楽器の響き方が変わってきます。

[テンポに合わせたブレス]

- ・音を出す前にテンポを感じ、ブレスのスピードもテンポに乗って行うクセをつけましょう。



- ※色々なテンポの速さで試してみましょう。

[長ければ長いほど良いロングトーン]

- ・息が続く限り音を伸ばしてみましょう。
- ・可能であればチューナーをみて音程を確認する
- ・何拍、何秒、良い音色で伸ばせたか記録していくと成長が実感できるのでお勧めです。

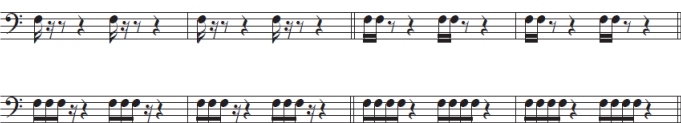


- ※色々な音で試してみましょう。

- ★これらのヒントを基に、自分なりのロングトーン練習を作り出してください。

■タンギング

- ・連続タンギングを上達するために準備練習を行い、舌がしっかり動くことを確認してください。



- ・準備練習ができれば、ロングトーンと同様に息が続く限り、連続タンギングにトライしてください。
- ・息が辛くなった際に、息の支えやリラックスが重要です。
- ※個人練習時間があまり取れない人におすすめです。



■スケール

- ・スケール練習はどの楽器でも大事ですが、特にファゴットは右手、左手で約30箇所キーをフル回転で押しています。左手は楽器の体重が乗り、左手だけ負担がかかったり右手で楽器の重さのバランスを取ったり、などで運指が頭に入っている、楽器の重さでタイミング良く指が回り辛くなります。
- これらを解決するためにスケール練習は有効かつ欠かせない練習です。

- ・どの調でも「正しい音階」に聴こえるように練習してください。
- ・ファゴットは音程の幅が大きく、指だけでは正しい音程を取れません。しっかり人間がコントロールして吹けるよう繰り返し練習し、録音などして自然に聴こえるか確認しましょう。

[B^b-major(B-dur)]

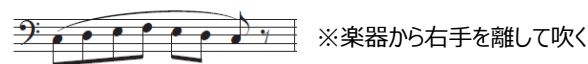


[F-major(F-dur)]



[楽器の不安定さを直す練習アイデア]

- ・右手を楽器から放し、左手だけで次の譜例を吹けるようにしましょう。
- ・はじめは楽器のバランスもとれず難しいと思いますが、左手一本で均等に吹けたら、右手を添えてスケールを吹いてみましょう。



■オクターブ練習

- ファゴットは楽器が長いので、オクターブを吹くときに息のコントロールが難しいのでトレーニングをしましょう。

[チェックポイント]

- ・息のコントロールが大切です。
- ・ヘ音記号からト音記号までの幅を短時間でサクッと練習しましょう。
- ・譜例を参考に最低音のシ♭から半音階で順番に吹いて行ければ、全ての音を練習できます。

